令和2年度厚生労働科学研究費補助金
厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
ＨＰＶワクチン接種後に生じた症状に関する診療体制の整備のための研究に関する研究
分担研究報告書

（課題名）当院における子宮頸がんワクチン接種後に神経症状を呈した患者の長期経過例

研究分担者　桑原　聡　千葉大学医学部附属病院脳神経内科
共同研究者　関口　縁　千葉大学医学部附属病院脳神経内科、JR東京総合病院
共同研究者　荒木　信之　千葉大学医学部附属病院脳神経内科

研究要旨

当院への新規患者受診は2018年以降0名であり、子宮頸がんワクチン接種後に神経障害を呈する新規患者は減少していると考えられる。一方で当院での長期観察例においては、免疫学的治療に一部反応はみられるが、大半は疼痛・易疲労性が継続しており社会復帰が困難であった。

A.研究目的

当院における子宮頸がんワクチン接種後に神経障害を呈した患者の臨床評価および治療の現状ついて検討する。

B.研究方法

2015年4月から2019年12月までに当科を受診し、ワクチン接種後に生じた神経障害が疑われた患者は23名のうち新規受診者は2016年度が4名、2017年度が3名であったが、2018年4月以降は0名であった。また上記23名のうち、現在当科通院中かつ2年以上当科で経過を追った長期観察例8例の治療経過を、後方視的に臨床データ・治療経過の検討を行った。

C.研究結果

長期観察例8例（罹病期間8.8±1.6年）の発症時年齢や接種から症状出現までの期間、当科受診までの期間は、他の15名と有意差を認めなかった。免疫治療の内容は、血液浄化療法6例、ステロイドパルス3例、ステロイド内服6例、免疫抑制剤2例で、現在も継続しているのは3例であった。発症時就労・就学状況は、初診時が平常・軽度障害1例、50%以上休学・休職している中等・重度障害が7例であったが、現在は平常・軽度障害が1例、中等度・重度障害が7例であった。8名中1名がアルバイトを継続しているが、残りの7名は疼痛・易疲労性のために就労就学に至っていないか、就労できても週1-2日程度であった。

改善を確認して終診とした5名（いずれも平常または軽度障害）と長期観察例8例の計13例で、平常・軽度障害群と中等度・重度障害群に分けて、発症年齢、接種から症状出現までの期間、症状発症から当科受診までの期間を比較したがいずれも有意差は認めなかった。

D.考察

長期経過例8例のうち、昨年度は平常・軽度障害例は2例と今年度より多かったが、うち1例は症状増悪しており、長期経過例の改善が乏しい現状が示された。

症状出現から対応可能な医療機関への受診までの期間が長い例ほど難治化する傾向が当科症例でもみられるか検討したが、その傾向は明らかでなかった。

E.結論

当院における子宮頸がんワクチン接種後に神経障害を呈した患者の長期経過例はほとんどが難治であった。

F.研究発表

Ⅰ論文発表　なし
Ⅱ学会発表　なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得　なし
2. 実用新案登録　なし
3. その他　なし